

別記様式第2号（その1の1）

(用紙 日本工業規格A4縦型)

基本計画書

基本計画書										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン オオサカオンガクダイガク 学校法人 大阪音楽大学								
フリガナ 大学の名称		オオサカオンガクダイガクタンキダイガクブ 大阪音楽大学短期大学部 (Osaka Junior College of Music)								
大学本部の位置		大阪府豊中市庄内幸町1丁目1番8号								
大学の目的		本学は音楽に関する実際的な専門職業に重きをおく大学教育を施し、音楽を通じて良き社会人を育成することを目的並びに使命としている								
新設学部等の目的		社会環境の変化や志願者動向を慎重に見極め収容定員の変更を行う。この変更により音楽教育の特色である少人数教育をより充実させ、教育の質的な向上を図る。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
		年	人	年次人	人	短期大学士(音楽)	年月 第 年次 平成30年4月1日 第1年次	大阪府豊中市 庄内幸町1丁 目1番8号		
音楽科 計		2	100 (150)	—	200 (300)					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計	科目	科目		科目	
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等						
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等			
	新設分	音楽科	10人 (10)	6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	17人 (17)		0人 (0)	341人 (347)
		計	10 (10)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	17 (17)		0 (0)	341 (347)
	既設分	該当なし	—	—	—	—	—		—	
		計	—	—	—	—	—		—	
	合計	10 (10)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)		341 (347)	
教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計						
事務職員	8人 (8)	6人 (6)	14人 (14)							
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
図書館専門職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
その他他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
計	8 (8)	6 (6)	14 (14)							

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大阪音楽大学と共に 法令上の必要面積 11,000m ²	
	校舎敷地	0m ²	23,100m ²	0m ²	23,100m ²		
	運動場用地	0m ²	0m ²	0m ²	0m ²		
	小計	0m ²	23,100m ²	0m ²	23,100m ²		
	その他	0m ²	14,496m ²	0m ²	14,496m ²		
	合計	0m ²	37,596m ²	0m ²	37,596m ²		
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大阪音楽大学と共に 法令上の必要面積 10,065.75m ²	
		0m ²	34,263.23m ²	0m ²	34,263.23m ²		
		(0m ²)	(34,263.23m ²)	0m ²	(34,263.23m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
	室	室	室	室 (補助職員人)	室 (補助職員人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数		室	
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 機械・器具 標本 点	
			〔 〕 ([])	〔 〕 ([])	〔 〕 ([])	〔 〕 ([])	
	計		〔 〕 ([])	〔 〕 ([])	〔 〕 ([])	〔 〕 ([])	
			m ²				
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数	
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			
		m ²					

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当たり研究費等		260千円	260千円	—	—	—	—	—		
		共同研究費等		660千円	660千円	—	—	—	—	—		
		図書購入費		1,157千円	1,164千円	1,111千円	—	—	—	—		
		設備購入費		11,374千円	13,543千円	9,293千円	—	—	—	—		
		学生1人当たり 納付金	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次	第6年次
			2,060千円	1,860千円	—	—	—	—	—	—	—	
学生納付金以外の維持方法の概要												
既設大学等の状況	大学の名称	大阪音楽大学短期大学部										
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
	音楽科	年	人	年次人	人	短期大学士(音楽)	倍	昭和26年	大阪府豊中市庄内幸町1丁目1番8号			
既設大学等の状況	大学の名称	大阪音楽大学										
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
	音楽学部	年	人	年次人	人	倍	平成24年	大阪府豊中市庄内幸町1丁目1番8号				
	音楽学科	4	210	3年次30	900	学士(音楽)	0.82	昭和33年				
	声楽学科	4	—	—	—	—	—	昭和33年				
器楽学科	4	—	—	—	—	—	昭和33年					
既設大学等の状況	大学の名称	大阪音楽大学大学院										
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
	音楽研究科	年	人	年次人	人	倍	昭和43年	大阪府豊中市庄内幸町1丁目1番8号				
	作曲専攻	2	2	—	4	0.25						
声楽専攻	2	4	—	8	1.25							
器楽専攻	2	7	—	14	1.00							
附属施設の概要		名称：大阪音楽大学音楽メディアセンター 大阪音楽大学付属図書館 目的：学生及び教員の教育研究 所在地：大阪府豊中市庄内幸町1-1-8 設置年月：昭和26年4月 規模等：述床面積 810m ² 名称：大阪音楽大学音楽メディアセンター 楽器資料館 目的：所蔵楽器の常設展示 所在地：大阪府豊中市庄内幸町1-1-8 設置年月：平成29年4月開設（大阪音楽大学音楽博物館を改称） *音楽研究所（開設時名称：音楽文化研究所）＝昭和41年4月開設 *楽器博物館＝昭和43年5月開設 *大阪音楽大学博物館＝平成14年4月開設（音楽研究所と楽器博物館を統合して改称） 規模等：述床面積 448m ²										

補足説明資料(組織の移行表)

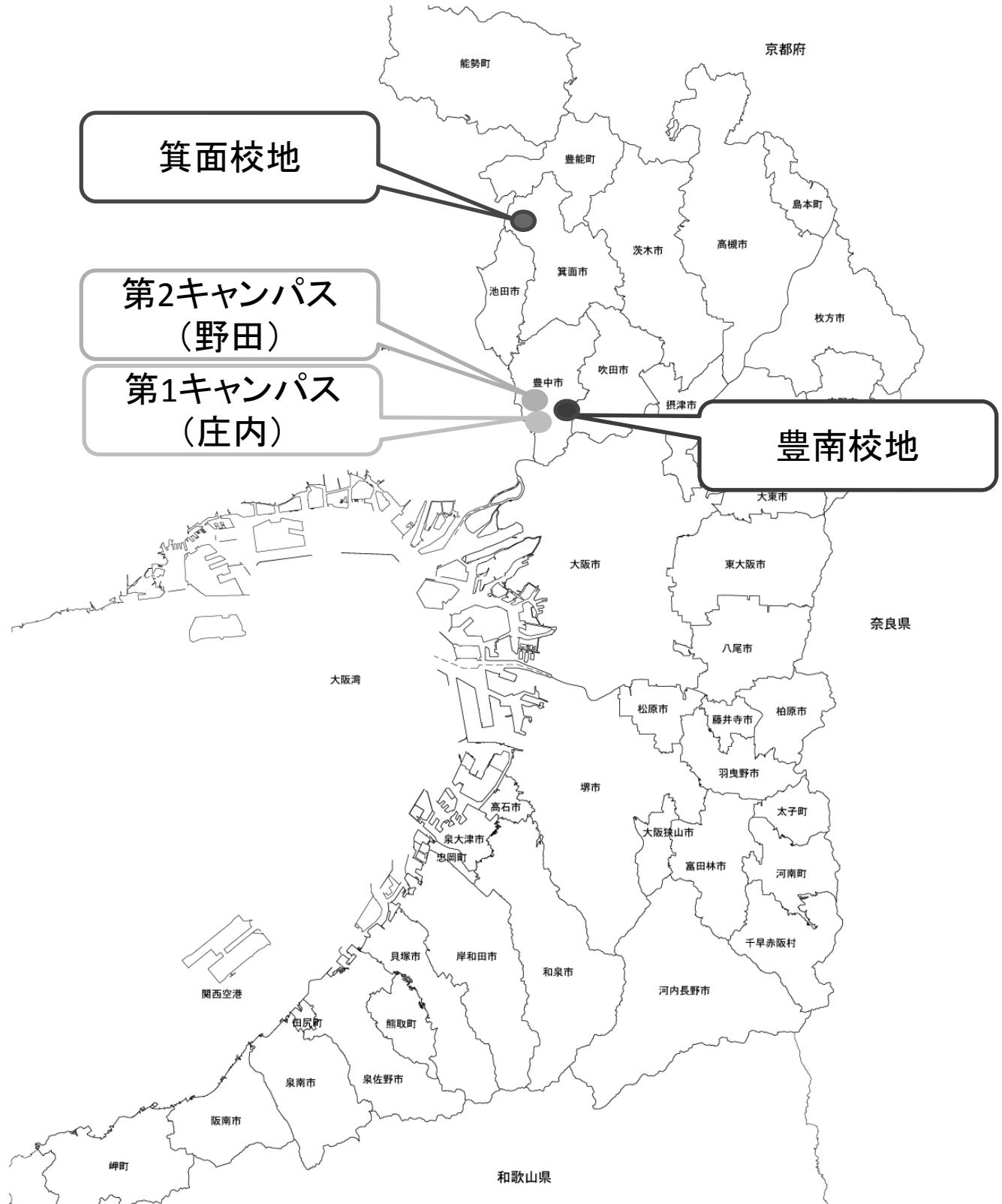
平成29年度

平成30年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
大阪音楽大学短期大学部				
音楽科	150	-	300	
計	150	-	300	
大阪音楽大学				
音楽学部 音楽学科	210	3年次 30	900	
計	210	3年次 30	900	
大阪音楽大学大学院				
音楽研究科 作曲専攻	2	-	4	
声楽専攻	4	-	8	
器楽専攻	7	-	14	
計	13	-	26	

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の 事由
大阪音楽大学短期大学部				
音楽科	100	-	200	定員変更 (△50)
計	100	-	200	
大阪音楽大学				
音楽学部 音楽学科	210	3年次 30	900	
計	210	3年次 30	900	
大阪音楽大学大学院				
音楽研究科 作曲専攻	2	-	4	
声楽専攻	4	-	8	
器楽専攻	7	-	14	
計	13	-	26	

(1) 都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄駅からの距離や交通機関が分かる図面



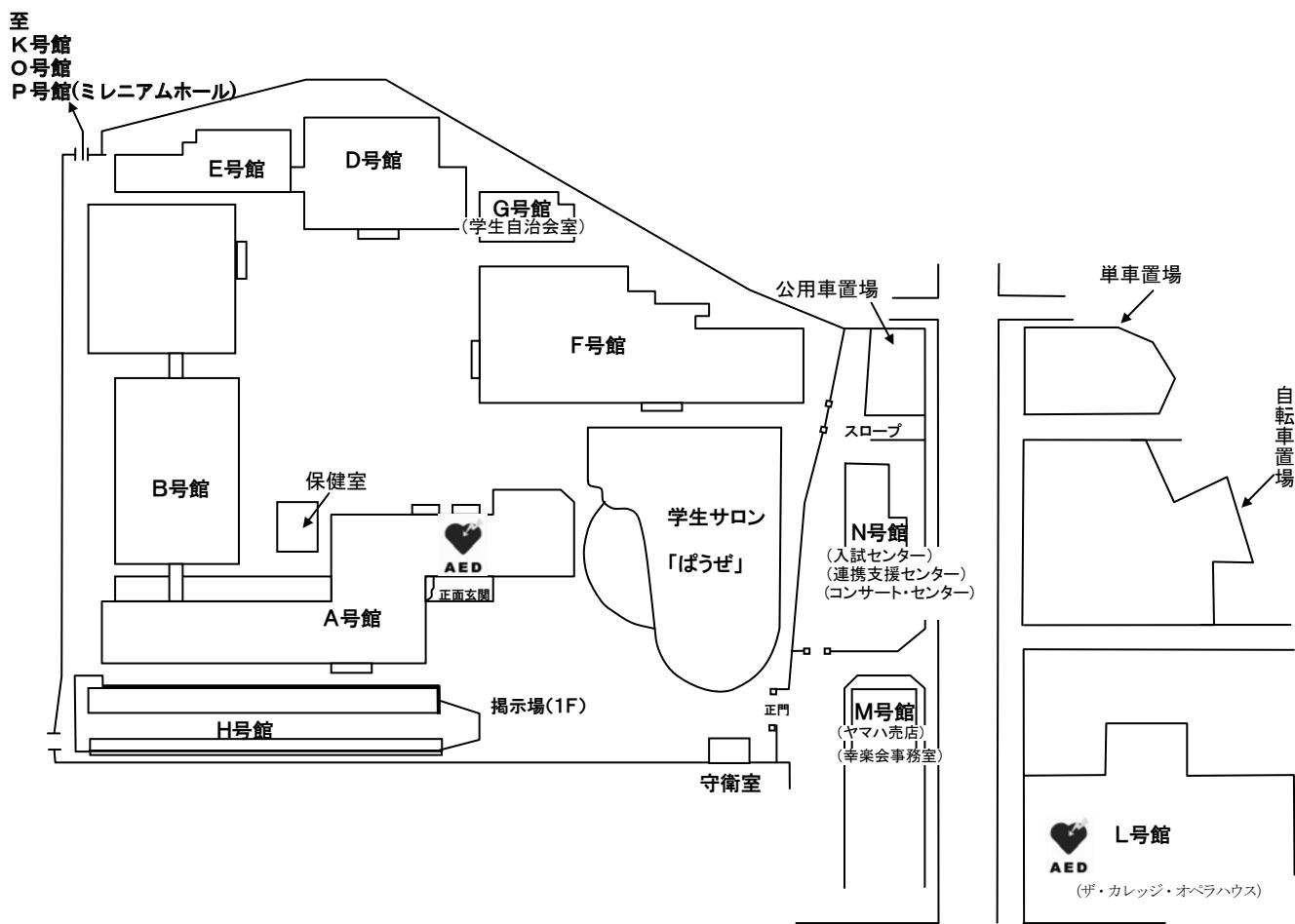
阪急宝塚線「庄内」駅下車
第1キャンパス正門まで約700m

(3) 校舎、運動場等の配置図

野田校地



庄内校地



大阪音楽大学短期大学部学則(抜粋)

文部省校管第183号認可：1951年 3月 7日
最近改定：2018年 4月 1日

第 1 章 総 則

(目的及び使命)

第 1 条 本学は音楽に関する実際的な専門職業に重きをおく短期大学教育を施し、音楽を通じて良き社会人を育成することを目的並びに使命とする。

(人材養成及び教育研究上の目的)

第 1 条の2 本学は世界に広がる音楽文化を広量な精神をもって理解、摂取し、時代に先駆けた創造的、実験的な音楽の発信者や音楽文化の担い手となる、幅広い人間力や音楽即戦力を備えた音楽人を育成するため、次の各号にかかげる事項を教育目標とする。

- (1) 世界の音楽、並びに音楽に関連するもろもろの芸術・学問を身に付けた進取の精神を持った音楽人の育成
- (2) 変貌する社会や音楽に即応できる音楽即戦力を持った音楽人の育成
- (3) 時代に先駆ける進取の音楽性を核とした豊かな人間性によって多くの人々から信頼を受け、社会を牽引できる音楽人の育成
- (4) 変貌する音楽の現在や未来の可能性を伝えることができる教育能力を備えた音楽人の育成

(自己評価等)

第 2 条 本学は教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。
2. 前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については別に定める。

(情報の積極的な提供)

第 3 条 本学は、本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供・開示する。

第 2 章 学科の組織

(学科)

第 4 条 本学に次の学科を置く。
音楽科

第 3 章 入学定員及び収容定員

(学生定員)

第 5 条 学生の学科の入学定員並びに収容定員は次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
音楽科	100人	200人

第6条～第67条 (略)

附 則

この学則は、1951年4月1日から施行する。

(附則 中略)

附 則 (2018年4月1日)

この学則は、2018年4月1日から施行する。

2018年3月31日以前に大阪音楽大学短期大学部または大阪音楽大学短期大学部専攻科に在学する者については、当該入学年度の旧学則を適用する。

別表 I -(1) (略)

別表 I -(2) (略)

別表第 II (略)

別表 III-(1) (略)

別表 III-(2) (略)

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

平成 30 年度から、大阪音楽大学短期大学部音楽科の入学定員を以下のとおり変更する。

現在	音楽科 入学定員 150 人 収容定員 300 人
平成 30 年度より	音楽科 入学定員 100 人 収容定員 200 人

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

大阪音楽大学短期大学部音楽科の近年の入学者数の推移は以下の通りである。

平成 25 年度に収容定員の変更を行ったが、その後の入学者数が入学定員を下回っており、定員の適正化を図るため、定員を減少させる。

入学者数		
平成 29 年度	111 人	(入学定員 150 人)
平成 28 年度	111 人	(入学定員 150 人)
平成 27 年度	114 人	(入学定員 150 人)
平成 26 年度	111 人	(入学定員 150 人)
平成 25 年度	137 人	(入学定員 150 人)
平成 24 年度	149 人	(入学定員 200 人)

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

教育課程、教育方法、履修指導方法、教員組織の変更は特段行わない。よって、教育課程等については定員減少前と比較し、同等以上の内容が担保されている。

施設については校地・校舎にあるとおり、変更後の教育に影響のない面積が担保されている。なお、平成 29 年 4 月から供用を開始した新校舎（100 周年記念館）において新たな音響機器・備品等が導入され教育環境の充実が図られている。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

近年、短期大学への進学者数は減少傾向にある 18 歳人口の 5%程度となっている。このことに加え、実学志向やクラシック音楽離れの中で、短期大学の音楽系学科への進学者数が他の専門分野に比べて全国的に大きく落ち込んでいることは様々な調査資料から明らかである。

しかしながら、本学は建学の精神である「新音楽ノ発生地タラン」として、ジャズ、ポピュラー、ミュージカル等の時代のニーズに対応するコースを教育課程の中に組み入れ、常に新しい音楽短期大学のあり方を模索してきた。このため、学生数は減少しているものの、音楽系としての入学者数は全国において依然高い順位を保っている。

また、平成 29 年 4 月には録音スタジオや MIDI 演習室を備えた「100 周年記念館」が開館し、本学学生の学習環境が飛躍的に向上した。機材や機器がより充実し、今後も 100 名の入学者に施設面で十分な満足感を与えることができる体制が整っている。

これらのことから、本学は今後も 100 名の入学者を安定的に確保できることと考えている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

過去 5 年間の志願者数・入学者数等は【資料 1】のとおり推移しており、今後も 100 名の入学定員を充足することは可能であると考えている。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

併設している大学と共にオープンキャンパスを毎年 7 月・10 月・3 月に実施し、授業見学や体験レッスン、個別の進学相談等を行っている。入場者数は毎回 400~800 名程度である。また、6 月には吹奏楽部に所属する高校生を対象に「吹奏楽フェスティバル」を開催し、基本奏法やコンクール課題曲の指導を行っている。いずれのイベントにおいても進学希望者や保護者、音楽指導者に本学の教育内容や教育環境を詳しく説明している。

さらに本学の新しい教育分野を積極的に広報する目的から、毎月「ダンスワークショップ」や「電子オルガン特別講座」を開催し、志願者の裾野を広げることに努めている。また、周囲に指導者がいない志願者には本学教員を指導者として紹介する「キャンパスレッスン」制度を設けている。これらに加え通年の取組として、音楽系のコースを持つ高等学校と高大連携の協定を結び、「オープンカレッジ」と称して本学の教員による高校生向けの授業を年間 16 回開講している他、高等学校へ講師を派遣している。

入学試験においては「高等学校特別推薦」を設け、志願者の音楽科や音楽コースにおける学修の状況が一定の基準に達している場合は推薦入学試験における専門実技試験を認定・免除している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は学則において、音楽に関する実際的な専門職業に重きをおく短期大学教育を施し、音楽を通じて良き社会人を育成することを目的並びに使命としている。

また、ディプロマポリシーにおいては次の能力や知識を修得した者に対し、短期大学士（音楽）の学位を授与することとしており、人材養成の具体的な指針としている。

○主に音楽の分野に関わる知識・能力

- 1)各自が専門的に取り組む分野の知識、技能、表現性を総合的に身に付けている。
- 2)音楽全般の基礎的な知識と能力がある。
- 3)修得した知識と技能を踏まえて、自らが課題を発見し、その解決に向けて努力を続けることができる。
- 4)音楽を通して、物事を複数の観点から捉える姿勢を身につけている。

○主に社会人としての資質に関わる能力・知識等

- 1)社会と関わっていくための基本的な知識と思考力、責任感を備え、かつ、自己のキャリア形成に積極的に取り組むことができる。
- 2)英語の一般的な運用能力、または外国語の基礎的な知識があり、文化の多様性を理解する能力を備えている。
- 3)日々の生活の中で、健康の保持・増進を心掛けて実践できる。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向などを踏まえたものであるとの客観的な根拠

本学卒業生の特徴として 2 年間の学びを終えた後にフリーランスとして演奏活動を継続する、或いは他の学校へ進学する等の事例が一定数あり、それ以外の者は主として「音楽関連企業・団体」「一般企業・団体」「音楽教室」「教員・公務員」の分野で就業している。

このように進路が多様化しているのは、第一主科目と第二主科目の組み合わせ方により、複数の実技を並行して学ぶことの他に、一つの実技を深く追求することや 2 年次において 1 年次と異なる実技を学ぶ等、学習志向や進路目標に応じた学び方を可能としている教育課程が活かされていると考えることができる。

したがって、人材需要の動向という面から考えた場合はミュージカル劇団から銀行、保険、公立学校まで幅広く人材を送り出しており、その一方で近年は京阪神地区の音楽ホールや演奏団体、楽器販売会社等におけるインターンシップに力を入れており、特に地域が求める音楽関連企業における人材需要の動向に応えている。本学学生の就職状況等をまとめた【資料2】が客観的な根拠である。

【資料 1】 志願者、合格者数、入学者数の推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
募集定員	150	150	150	150	150
志願者	205	148	139	151	146
合格者	196	145	137	140	142
入学者	137	111	114	111	111

【資料2】 進路状況

進路区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
就職	30	36	44
音楽教室講師	8	5	6
演奏活動	3	2	11
企業	15	22	21
教員	0	4	4
公務員(国家)	0	0	0
公務員(地方)	2	0	0
その他	2	0	2
進学	39	32	30
その他	50	38	38
フリーランス ／アルバイトをしながら演奏活動	44	23	23
その他	6	15	15
回答者合計	119	106	112
卒業者数	121	108	112

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ムトウ ヨシオ 武藤 好男 <平成24年4月>		芸術学修士		大阪音楽大学短期大学部学長＊ (平成24年4月～平成29年3月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。